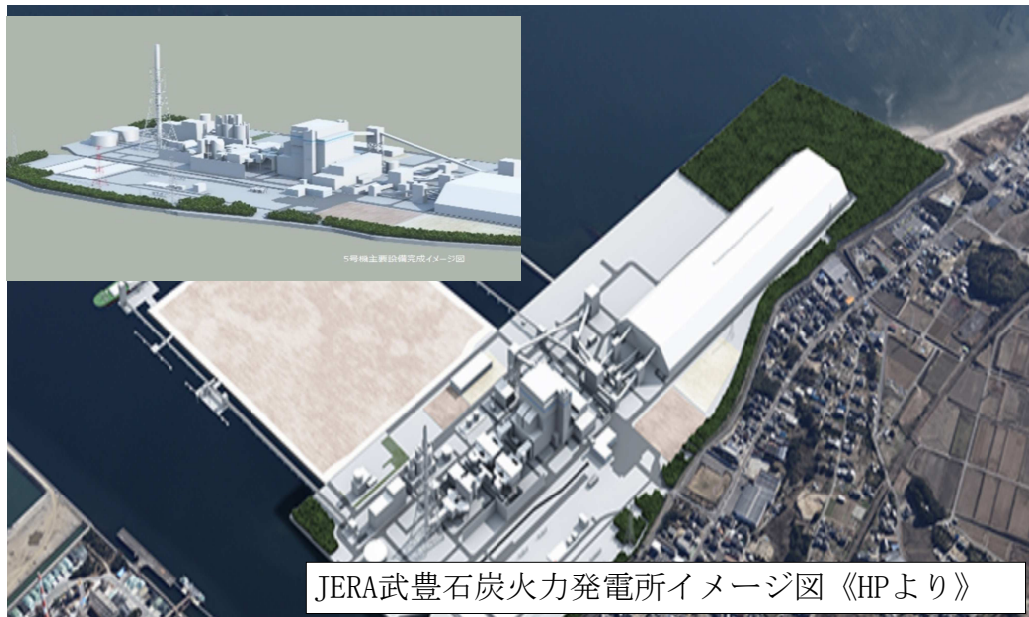


どうしても 日本共産党 県会議員が必要 武豊石炭火力発電所、運転開始8月に延期 豊橋県会補欠と参議院選挙で石炭火力廃止の流れを



JERA武豊石炭火力発電所イメージ図《HPより》

10月11月に、重大事故

気候危機打開が最大テーマになっている中、武豊石炭火力発電所の運転開始が注視されています。2021年10月19日午前10時頃には、JERA武豊石炭火力発電所の電気室の配電盤から出火し消防車が出動しました。さらに11月16日午前9時半頃、請負会社(株)シーテックの協力会社作業員1名(72歳・男性)が4m高さの電柱で作業中基礎が外れ、高所作業車に激突し挟まれ意識不明の状態です。緊急搬送されました。さらに11月19日午後0時15分頃、40歳男性が上昇したゴンドラに安全ベルトのフックが引っかけたことで死亡しました。

3月▼5月▼8月に運開2度延長

こうした中、JERAは当初107万kwの運転開始は2022年3月としてきましたが、昨年、5月に変更。さらに10月の火事発生後、2022年8月に運転開始時期を先送りしてきました。現地の武豊町環境課も愛知県環境部、環境影響リスク対策グループも掌握していませんでした。

世論の力で運転開始にブレーキ

2月1日、日本共産党はJERA武豊に直接電話確認しました。「火災やコロナで工期が遅れている」とJERA側は報告しました。しかし、地元の行政にも近隣住民にも何の変更通知もしていません。

昨年11月にはCOP26が開催され、世界の46カ国が石炭火力反対宣言をしています。国内外の、温暖化対策や気候危機打開の世論の広がりの中で、新たな石炭火力発電所による稼働が出来ない状況に追い込まれているのではないのでしょうか。

碧南石炭火力の休止をセットで



実効性ある脱炭素を《1/31中日新聞》

蜷川河口に可動水門を 日本共産党が県に申し入れ

1月26日日本共産党は、山口・岡本碧南市議と磯貝明彦市民運動部長が県知立土木事務所に出向き「蜷川河口に可動水門を」と要望しました。平成28年6月3日に一部変更した蜷川河川整備計画に、平成28年3月に約1000名の河口水門を求める要望署名が提出されたのに黙殺していること。次期計画に組み込みが必要と求めました。2月3日には杉浦哲也自民党県議にも申し入れます。日本共産党の県議がどうしても必要です。



国は2020年に碧南石炭火力発電所1号機70万kw×2基を廃止すると発表しました。少なくとも、武豊石炭火力発電所107万kwの運転開始するならば碧南の140万kwを休止することは絶対条件です。

しもおく奈歩を再び県会に



1)

2月6日(日)投開票の議員の辞職に伴う豊橋市の愛知県議補選(欠員2)は、日本共産党の元職、しもおく奈歩氏(34)、減税日本の新人で会社役員の竹上裕子氏(6無所属の新人で元豊橋市議の広田勉氏(52)の3人が立候補。1人はみ出しの大激戦です。しもおくさんは、武豊石炭火力に反対した県議。なんとしても日本共産党の県議を。お知り合いにご支持を広げてください。

「赤旗」創刊94周年(22. 2. 1)に寄せて

元文部科学事務次官 前川喜平さん

「真実突き止める」に信頼



立憲野党による共闘のベースになるファクトをちゃんと集めておく役割は「赤旗」しかない。野党共闘を進めるうえでも非常に大事な役割を果たしています。

総選挙の野党共闘は画期的でした。絶対にやめてはいけません。憲法を守る政治か、憲法を壊す政治か、対立軸は明確です。共産党以外の野党に「赤旗」のような報道機関はありません。

野党共闘は対決軸は明確

洋の東西を問わず平気でうそをつく政治家はたくさんいます。何が真実であるか突き止めるのがジャーナリズムです。その点で「赤旗」は真実を突き止めるということを一生懸命、地道にやっています。だからこそ信頼性があります。

真実の追求こそジャーナリズム

いま新聞など大手メディアは「中立」を装っています。それは幻想です。実際、各新聞は社説で同じ事柄を取り上げても書く内容が全然違う。絶対的な「中立」なんて存在しないのです。中立性を意識するあまり、本当のことを言っている人と、うそをついている人を、同列に並べて報じるということが起きています。これはジャーナリズムではない。

「中立」という、ゆがみ

中央省庁の官僚は「しんぶん赤旗」を非常に注意深く読んでいます。ちゃんと事実に基づいて報じられていますから。「赤旗」に新しい指摘が出ていると、役所の側も「これは調べなければまずいぞ」となるわけですね。気を付けておかないとすぐ翌日の国会で追及されますし(笑)。私は「赤旗」の事実に基づいた正確な報道というのを評価しています。

しんぶん赤旗 中央省庁にも

気候危機打開へ学習会

2030年まであと8年

さよなら原発・石炭火力発電所

再生エネ・省エネへの道



JERA碧南石炭火力発電所

2月26日(土)

午後2時～4時 参加費：無料

場所：碧南市役所レストラン2階

(碧南市松本町28・電話 0566-41-3311)

お話しします

◎大野克良

NP0 愛知地域資源ネットワーク理事
おひさま自然エネルギー協同組合
愛知金融革新懇事務局長

◎山口はるみ

日本共産党碧南市議会議員
「気候危機打開2030戦略」
碧南石炭火力発電所の現状

◎公共施設屋根貸し太陽光発電などの業者

太陽光発電の現況

◎自由発言

事前に資料などあったらご連絡ください

本当に石炭火力発電なくせるの？
太陽光発電ってうちにも可能？
売電価格が安いのでは？
気候危機打開の決め手は？
2030年までの未来への選択は？

♪ 心優しい 科学の子 10万馬力だ

2021年11月のCOP26では46カ国が石炭火力発電所の新設中止や廃止を求める「宣言」に賛同しました。一方、日本政府は「化石賞」の汚名を。

若者の未来を守るためにも2030年までの温暖化防止対策が地球を守る緊急課題です。みんなで学び国県市に求めることや、市民でできることを進めましょう。ぜひこの機会にご参加ください。

日本共産党碧南市委員会



市議会議員

山口はるみ

☎42-8940

三度山町 2-70-4



市議会議員

岡本守正

☎41-5357

笹山町 6-29



市民運動部長

磯貝明彦

☎48-2718

若松町 3-253

戦争法廃止

改憲許すな19行動

2月19日(土曜日)

午前11時～12時

ピアゴ東浦店

東浦町6-17



日本共産党碧南市議会議員団のホームページをごらんください。

新しい日本をつくる五つの提案

- 新自由主義から転換し格差を正し暮らし家計応援第一の政治
- 憲法を守り、立憲主義・民主主義・平和主義を回復する
- 権主義への従属・屈服外交から抜け出し、自主・自立の平和外交に転換
- 地球規模の環境破壊を止め、自然と共生する経済社会をつくる
- ジェンダー平等社会の実現、多様性を大切に個人の尊厳を尊重する政治